

アゼルバイジャン： 地球規模の問題に関する 国際対話のプラットフォーム

ムサ・マルジャンリ、
編集長

本誌の次号は、渡辺克也駐アゼルバイジャン日本国特命全権大使（在アゼルバイジャン日本国特命権全大使）渡辺克也氏の記事で始まります。この記事では、この尊敬される外交官が、1年前に任命された役職で働いた感想を共有し、さらに、彼の意見として、両国間の最も有望な協力分野について簡単に概説しています。この点において、再生可能エネルギー源に基づくグリーン経済への移行に向けた取り組みが特に重要視されています。著名な大使は、この観点から、最近バクーで開催された国連気候変動枠組条約第29回締約国会議COP29をアゼルバイジャンで開催することが重要であると考えている。

アゼルバイジャンでは、この代表的な国際フォーラムが、地球の生態環境へのさらなる悪影響を防ぐための国際社会の取り組みにおける国の役割を認識するだけでなく、国家と国家の威信に関わる問題として認識されていることに留意すべきであります。しかし一般に、国際舞台における共和国の権威の増大しています。

したがって、アゼルバイジャンの国と国民が会議が高いレベルで開催されるよう全力を尽くし、この目標が達成されたのは当然です。この雑誌の最新号には、このトピックに特化した広範な記事が含まれています。この記事では、現在の気候変動とグリーン エネルギーへの移行の影響を克服するためにアゼルバイジャンで実施されているさまざまな取り組みについて考察しています。アゼルバイジャン政府は、今年を「緑の世界のための連帯の年」と正式に宣言し、この分野での国際協力も非常に重視しており、さまざまな取り組みに積極的に参加しています。この活動は国際社会からの評価を集め、次回のCOP会議の主催をアゼルバイジャンに委託する決定を決定しました。

また、占領から解放されたアゼルバイジャンの領土を回復するというテーマに特化した慶応義塾大学教授 廣瀬陽子の記事にも読者の注目を集めたいと思います。著者は、修復作業の順調な進捗と国内避難民の帰還という観点から、アルメニア占領者が設置した地雷を領土内から除去することが極めて重要であると述べています。カラバフの復興は、「スマート」都市や村の概念を含む先進的で環境に優しい技術に重点を置いて実施されており、アゼルバイジャンに友好的な国々がこの作業に積極的に参加していることが注目されます。著者は、カラバフの復興は戦争で被害を受けた領土を回復するための国際的なモデルとして評価できるという考えを表明しています。

いつもの通り、この号にはアゼルバイジャンの歴史、現代性、文化のさまざまな側面に関する資料が含まれています。私たちは、日出ずる国の親愛なる国民の皆さんが、この号の資料が火の国についての知識をさらに広げるのに役立つことを願っています。